

などうなりるべき極くまべーとよみくのもや既よ白鷹記あり

上略此記ハ嘉暦二年丁卯三月前關白良基作と云
九十六代光嚴天皇の御代の作なり

抑上古の名鷹ハ天智

天皇の磐手

鷹の名
下皆然り

野守延喜の聖主ハ白兄鷹一條院乃

鳩屋赤日みくこむく小一條院の藤花韓卷山峨等也

近比世並せる奇鷹あり爰ハ信濃國祢津の神平なる

處の白鷹其相鷹經ハ叶へる所なるぞそハ毛雪

あふとのみべー云くとも又鷹の書ハ白鷹と云ハ九品

有くくくの名もみく其見様なりとへくくせれども

今も畧してゆきどちのく皇朝ハ於く鷹をとりてあそび

ゆき始ハ日本書紀仁徳天皇四十三年の条ハ上略